

公民

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
公民	倫理	2	3年次・J1	選択履修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
倫理（東京書籍）		要点マスター 倫理 整理と演習 （東京書籍）		履修条件なし

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
《「知識及び技能」に関わる目標》 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。 《「思考力、判断力、表現力等」に関わる目標》 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 《「学びに向かう力、人間性等」に関わる目標》 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。 良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。 理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また、そのような取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。

2 学習計画と観点別評価項目

	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	第1章 人間の心のあり方	4		
			1節 人間とは何か		・人間の定義について考えた上で、「考えること」の意義について考察します。	1 2 3
			2節 人間の心の働き		・人生における青年期の位置づけや特徴、現代社会におけるその特質について考察します。	1 2 3
			第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ	5		
			1節 哲学すること		・「哲学」の意味や「哲学すること」の意義について理解し、自己の在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方を考察する。	1 3
			2節 ギリシャの思想		・自然哲学の思想にみられる自然と人間との関わりや、世界を捉える知の在り方について多面的・多角的に考察する。	1 2
			3節 宗教と社会	6	・人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与えた影響について、先哲の考え方や歴史的な事実を手がかりにして多面的・多角的に考察する。	1 2 3
			4節 キリスト教		・古代ユダヤ教の特徴や『旧約聖書』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察する。	1 2 3
			5節 イスラーム		・イスラームの在り方やムスリムの社会規範・生活規範について多面的・多角的に考察する。	1 2 3
			6節 仏教	7	・人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察する。	1 2
			7節 中国の思想		・諸子百家の代表的な思想について、歴史的背景をふまえて考察し、人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察する。	1 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	2 学 期		8 節 芸術		・美を求める心や、それが人生を豊かにするものであることなどを手がかりにして多面的・多角的に考察する。	1 2 3	
			第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ	9	・西洋における近代化の特徴について、現代に通じる人間尊重の精神という観点から、歴史的背景をふまえて考察する。 ・ベーコンとデカルトの思想、経験論と合理論、社会契約説や自然法思想などについて、共通点と相違点に留意しつつ多面的・多角的に考察する。 ・カントの批判哲学、ヘーゲルの弁証法について、多面的・多角的に考察する。 ・アダム・スミス、ベンサム、J. S. ミルの倫理思想について、現代の社会生活と関連付けながら多面的・多角的に考察する。 ・キルケゴール、ニーチェ、フロイトの思想を手がかりに近代の人間観や世界観がどのように変容したかについて多面的・多角的に考察する。 ・ハイデッガー、ヤスパーズ、サルトルの思想や、現象学、実存主義の考え方を手がかりに、従来の人間観や世界観の問いなおしについて多面的・多角的に考察する。 ・他者とのかかわりや言語活動について、レヴィナス、ベンヤミン、アーレントなどの考え方を手がかりに多面的・多角的に考察する。		
			1 節 近代と人間尊重の精神			1 2	
			2 節 近代思想の展開			1 2 3	
			3 節 人格の尊厳と人倫の思想	10		1 3	
			4 節 社会変革の思想			2 3	
			5 節 理性への疑念	11		1 2 3	
			6 節 人間観・言語観の問いなおし			1 3	
	7 節 他者・自然とのかかわり	12	1 2 3				
	3 学 期		第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚	1	・公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、現代の諸課題を探究する活動を行う。 ・日本の仏教受容について、外来思想である仏教をどのように理解し変容させたのか、多面的・多角的に考察する。 ・日本人の思想形成に儒教が与えた影響について、多面的・多角的に考察する。 ・代表的な国学者の思想を理解し、国学が見出した古来の日本人の心情や国学の思想がその後の日本に及ぼした影響について多面的・多角的に考察する。 ・為政者でない庶民がどのようにみずからのあり方を肯定して生きたかを多面的・多角的に考察する。 ・啓蒙思想家や自由民権思想家の考え方を理解しながら、同時代への影響や現代に通じる問題意識について多面的・多角的に考察する。 ・日本の思想伝統に関し現代において自覚的に受けつぐべきものや、問いなおすべき課題について多面的・多角的に考察する。	1 2 3	
1 節 日本人の精神風土				1 2 3			
2 節 仏教と日本人の思想形成				1 3			
3 節 儒教と日本人の思想形成			2	1 2			
4 節 国学の思想				1 2 3			
5 節 庶民の思想				1 2 3			
6 節 西洋思想と日本人の近代化			3	1 2 3			
7 節 国際社会に生きる日本人の自覚		1 2 3					
		第2編 現代の諸課題と倫理	1 節 生命 2 節 自然 3 節 科学技術 4 節 福祉 5 節 文化と宗教 6 節 戦争と平和		・学習した事項を基盤に、生命、自然、科学技術、福祉、文化と宗教、戦争と平和について、多面的・多角的に考察する。	1 2 3	
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度	
	規 準	○学習内容を理解できているか。 ○発問を理解し、答えを正しく求めることができていないか。 ○資料から得られる情報を効果的に活用しているか。		○学習内容を理解しようとしているか。 ○学習内容を適切に活用し、自分の意見を表現できているか。 ○学習内容を現代の諸課題に関連付けて考えることができていないか。		○学習内容に興味、関心を持ち、内容を考察し、自ら調べようとしているか。 ○現代の諸課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしているか。	
	手 段	・定期テスト		・定期テスト		・授業中の応答や態度、課題など	
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」から総合的に評価する。				
学習上の留意点		・毎時間教科書とノート、タブレットを持参する。 ・課題やノート（学習プリント）など、提出物は期限内に提出すること。					